



2021年度冬のボーナス満額を勝ち取ろう！ シリーズ⑫

ユニオン「誠意ある回答」と絶賛！ 組合員の気持ちは置き去りだ！ 真剣に交渉していない証左だ！

会社は11月5日、年末手当の団体交渉で「支給月数2.2ヶ月」と回答しました。JR東海労は、その場で会社に対し「持ち帰り検討に値しない」とし、再申し入れを提出しました。

会社は、「赤字だから」と言いますが、過去、毎回過去最高益の利益を上げながらも、安定的支給ベースなるものを会社が勝手に決めて、利益を社員に還元しませんでした。赤字になったとたん、安定的支給ベースを下回る回答を3回連続してきました。安定的支給ベースとは、過去の利益を貯蓄して、会社が赤字になったとしても安定的に期末手当を支給するものだ、会社も言っていたし、社員誰もがそのように理解していました。社員はそれを信用して、住宅ローン等を計画的に組んだのです。

しかし、会社は「赤字だから安定的支給ベースなんて物はない。黒字だから安定的支給ベースはある」と、ふざけた回答をしています。社宅や独身寮に年齢制限をつけ、住宅などを早く買わせ、社員を借金漬けにさせて、我武者羅に働かせてきたのは会社です。

一方、JR東海ユニオンは「誠意ある回答」と絶賛しました。そして、「支給時期と組合員の生活の影響を考えると」と、組合員の生活の影響よりも支給時期を優先に考えています。JR東海ユニオンは、もっと組合員の切実な意見や気持ちを汲み取り、会社と交渉すべきではないでしょうか。高い組合費を支払っている組合員のために、直ぐに妥結せず再申し入れをするべきではないでしょうか。JR東海ユニオン指導部の行動や情報から見えてくるのは、労働組合として真剣に組合員のために働かず、役員自身の地位と自己保身のために組合員を利用しているということです。

JR東海労は真の労働組合として、年末手当の再申し入れの団体交渉においては、全社員を代表して取り組んでいきます。